

感謝の気持ちを忘れずに

西小6年 ^{よこやま} 横山 すばる さん



祖母は、自分でお店を開いているのに曾祖母や祖父の介護をしたり、私の塾の迎えや手料理をふるまってくれたりします。ある日、祖母がいつも通り、私の塾の迎えに来てくれた時、祖母を待たせてしまいました。車に乗ると、いつも優しく明るく話しかけてくれる祖母がその日は黙ったままでした。私が遅くなったのが悪かったのかと思い、謝ると祖母から「人から色々やってもらうのは当たり前ではないんだよ。」と言われ、私は「ありがとう」という一つの言葉、感謝の気持ちを伝えていなかったことに気が付きました。

それから私は、学校の友達や地域の方に「ありがとう」を言うことを心がけるようになりました。

「ありがとう」という言葉は、言った人も言われた人も、うれしい気持ちになる不思議な言葉です。感謝をするということは、色々な人との仲が深まるだけでなく、人を喜ばせ、心からの感謝の気持ちを伝えることができると思います。

これからは、「ありがとう」を言うだけでなく、今まで多くの苦勞をしてきた祖母の手助けをしながら、感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。そして、「ありがとう」の本当の意味を教えてくれた祖母に感謝したいです。

「おばあちゃん、ありがとう！」

一人一人の気づかい・心がけから

東小6年 ^{いでた よしき} 出田 義貴 さん



魚釣りが好きで、家族で川や海などに行きます。そこには多くの魚が住んでいて、行くたびにわくわくします。しかし、残念なことどこへ行っても必ずごみがあります。大量のごみがあると水辺の環境が悪化し、生き物の命のつながりが途切れてしまいます。また、テレビでレジ袋を食べて死んでしまったウミガメや釣り糸がくちばしにからまった海鳥を目にしました。

人間が好き勝手な行動ばかりとつてしまうと、川や海に住む生き物の生活環境は破壊され、水も汚れます。水が汚れることで、食用の魚も減り、有害物質で汚れた魚を食べることで人間は病気になります。自分たちがやったことが、自分の体に悪影響として帰ってくるのです。

これ以上水を汚さないために一人一人が気づかいをすることが、きれいな水を守ることに繋がると考えます。僕は魚釣りをするときは必ず近くに捨てられているごみを拾います。また、家で手伝いをするときは家庭科の授業で学んだ水を汚さないための工夫を実践しています。

きれいな川や海を守るため、気づかいと自分のできることを少し実践することで、函南町の川や静岡県のお海ばかりでなく、日本の海・世界の海まで汚さずにすみませう。明るい未来を作るための環境づくりは、一人一人の気づかい・心がけから。

近未来における人間とロボットの共働社会

桑村小6年 ^{さかもと かける} 坂元 翔昂 さん



ある番組で、介護の分野でロボットを使用しているのを見て、「おじいさんやおばあさんは、ロボットのことをどう思っているのだろう」という気持ちと科学技術の進歩に感心しました。5年生の時に見学した自動車工場では、工場内は機械やロボットだらけで、日本の科学技術の進歩が生活を便利にしていると思いました。しかし、科学技術の進歩は、決して良いことばかりではなく、ロボットを使う上で「限度」を考えないといけないと思います。

家族とドライブスルーを利用した時に、電子画面のメニューで注文し、前に進むと、店員の人が注文とは関係のないことを話しかけてくれて、楽しい気持ちになりました。ロボット相手では、このような気持ちにはならなかったと思います。

将来的に、ロボットには単純作業や危険が伴う作業などの活躍がもっと期待されます。

これらのことから、ロボットや人工知能にできることとできないことを理解して、お互いに補うことが大切だと考えます。それこそが、「近未来における人間とロボットの共働社会」だと思います。僕は人の気持ちを考えられるように、人とコミュニケーションを取るなど自分磨きをし、ロボットにできない仕事に就きたいと思っています。

オール丹那で心は一つ

丹那小6年 ^{なかむら まい} 中村 麻愛 さん



皆で一つのことを行い、達成できた時、「心が一つ」になったと感じます。

私がそう思った理由には二つあります。

一つ目は「朝じゃれ」という全校で行う朝の活動で、他の学年の児童など皆で楽しむことができます。

二つ目はオール丹那の4つのミッションという丹那小全員と地域の皆さんが協力して取り組む活動です。

①「オール丹那玄岳遠足」は60年以上の伝統行事で全校児童と先生、保護者、地域の皆さんで山を登り、山頂で乾杯をして校歌を歌います。②「オール丹那運動会」は運営委員会を中心に種目を考え、保護者や地域の皆さんも一緒に参加します。③「オール丹那自給自足デー」は自分たちで育てた野菜や地域の皆さんに頂いた野菜を調理して食べ、それぞれの人の努力や役割を感じます。④「オール丹那学習発表会」は地域の皆さんへの感謝の気持ちを表現し、発表会後にPTAの役員が豚汁を振る舞ってくれ、優しい気持ちやおいしい野菜を感じます。

このように素敵な体験のできる丹那小は、皆さんの大事な「交流の場」になっています。「交流の場」がさらに広がるように、放送委員として、兄と同様に昼の「Mニュース」で学校を盛り上げ、卒業しても素晴らしい学校であるよう、見守りたいです。

大切なもの

函南小6年 ^{たなか あやな} 田中 綾菜 さん



運動会でむかで競争に挑戦しました。日々上達してきた私たちの4人むかでに、ある日、支援学級の仲間が加わり、5人むかdeを作ることになりました。「一緒にやりながら、教えてあげよう」と思いましたが、なかなかうまくいきません。でも、仲間たちは一度も練習をやめたいと言いませんでした。先頭で皆をひっぱり、疲れた仲間を励ます友達。大切なのは勝つことではなく、力を合わせてやり遂げることだと教えられました。

私は双子でしたが、1人は生まれる前に亡くなりました。私には妹もいました。妹は生まれた時から病気で、「1週間ほどしか生きられない」と言われていたそうです。頑張って4か月も生きました。妹がもし生きていたら支援が必要な毎日を過ごしていたことでしょう。でも、私は妹に生きて欲しかったのです。

妹たちから生命の大切さを教わり、皆が支え合わなければいけないとわかっていたはずでしたが、運動会で忘れかけていた大切なことを思い出すことができました。それぞれが違うからこそ、力を合わせて一緒に歩いていく素晴らしさを改めて感じることができました。

私は、誰とでも協力して、優しく接することができる大人になり、その思いを多くの人に伝えていきます。

平成 29 年度
函南町青少年健全育成大会

わたしの
主張発表

私たちの
想いを込めて

7月2日、函南町文化センターで青少年健全育成大会が行われ、町内の小学校5校、中学校2校、高校1校の計8校の代表者が「わたしの主張発表」を行いました。わたしの主張発表の内容や社会を明るくするポスター特選作品などを紹介します。

また、8月22日に函南町文化センターで「わたしの主張 2017」静岡県大会が行われ、原口結菜さん（函南中3年）が函南町代表として出場しました。

同大会には各地区から選ばれた県内13人の中学生が主張発表し、原口さんは最優秀賞を受賞し、11月に開催する全国大会への出場候補者として推薦されます。

問合せ／生涯学習課（979-1733）

